

横浜キネマ倶楽部
第35号 会報
2014年6月7日発行

第35回上映会

日本の悲劇

小林政広監督作品
(2012年/カラー/101分/ブルーレイ上映/日本)



©2012 MONKEY TOWN PRODUCTION

ロビー交流会

13:00~13:30

2014年6月7日(土)

[上映時間] ①11:00~ ②14:00~
[会場] 横浜市西公会堂

『日本の悲劇』

【物語】

2011年10月。ある夏の夕暮れ。東京都葛飾区金町の木造平屋の古い村井家に、息子・義男に付き添われた不二男が帰って来る。

3月11日の東日本大地震の日不二男は入院、肺ガンの診療を受け一度の手術を経験した。不二男が医師の制止も聞かずに退院したのは、二度目の手術を告げられたからだった。医師は不二男に手術をしなければ、三ヶ月の命だと宣言した。にもかかわらず不二男は勝手に退院してしまった。

その日は不二男の妻・良子の命日だった。勝手に退院した不二男に義男は行院に戻るように懇願するが、不二男は耳を貸さない。義男は突然職を失ったことでうつ病を患い、妻と子とも別れ、父親の年金を頼りに無為無職の日々を過ごしていた。



©2012 MONKEY TOWN PRODUCTION

不二男は帰宅した翌日、大工だった頃の商売道具を使い、自室のドアや窓にクギを打ち、自分はミイラになると宣言し、良子の遺影に向かい正座した。

【キャスト】

父・不二男・・・仲代達也
息子・義男・・・北村一輝
不二男の妻・良子・・・大森暁美
義男の妻・ともこ・・・寺島しのぶ

【スタッフ】

脚本・監督・・・小林政広
製作・・・小林直子
プロデューサー・・・小林政広
撮影・・・大木スミオ
照明・・・袴 宮信

録音・・・福田 伸
美術・・・山崎 輝
編集・・・金子尚樹
助監督・・・石田和彦
衣装・・・宮田弘子

『日本の悲劇』製作ノート より

○ 映画作りは、最後はいつだって、度胸だ。映画は、心と肝で作るものだ。仲代さんら役者さんたちが、やると言ってくれているのに、やらない肝は持ち合わせていない。しかし、それにしても思い出されるのは、仲代さんとお会いしたときにボクに言った言葉だ。「あのね、小林正樹監督は晩年借金を抱えて、奥さんと貸間で暮らしていたんですよ。映画監督は、それくらいでなくちゃね！」とは！

○ 311のあたりで、ボくら映画に曲りなりにもかかわっている人間は、格闘しつつも、精一杯、この日本の悲しい出来事に向かい合おうとしている。映画で何かが変わるなどは思っていない。しかし、たった一人かも知れないが、映画を観た人が、救われた思いを抱いてくれたら幸いだ。人を救うのは、共感だから、

☆ 小林政広 監督 プロフィール

1954年1月6日東京都生まれ。70年代初め、林ヒロシの名でフォーク歌手として活動。1981年に映画監督を志し渡仏するもヨーロッパ放浪へ。帰国後、一念発起してシナリオを書き始める。翌年、『名前のない黄色い猿たち』で第8回城戸賞を受賞し、テレビドラマの脚本家としてデビュー。オリジナルを中心に約500本ものドラマを手掛ける。1996年、長年の夢であった映画製作に取りかかり、初監督作品『CLOSING TIME』を完成させる。妻子を失い酒に溺れた男が夜の街を彷徨う幻想的なデビュー作は、ゆうばり国際冒険・ファンタスティック映画祭で日本人初のグランプリを受賞。その後、精力的に作り続けている映画のほとんどが彼のオリジナル脚本による作品で、プロデュースをも務めている。『海賊版＝BOOTLEG FILM』(’99)、『殺し』(’00)、『歩く、人』(’01)、『バッシング』(’05)、『女理髪師の恋』(’03)『愛の予感』(’07)、『ワカラナイ』(’09)、『愛の予感』。仲代達矢を主演に迎え老人と孫娘が生きる場所を求めて旅をする『春との旅』(’10)では、毎日映画コンクール日本映画優秀賞をはじめ作品賞、観客賞、最優秀監督賞ほか国内外で数多くの賞を獲得した。

『日本の悲劇』パンフレットより

2014.2.9 第34回上映会

きっと、うまくいく

アンケート集計結果

来場者数 110名
アンケート総数 27枚(回答率24.5%)



作品についての評価・感想

「とても良かった」16枚 (59.3%)

- 元気ができました。
- おもしろいが、含蓄があり、泣かせる場面もあってよかった。人生の真実が現れている。私も「きっとうまくいく」と唱えて行動を起こそう。
- インド映画は初めて観ましたが、とても楽しかったです。3人の若者が学生時代に自分の道を見つけ、それぞれが「やりたいことをやる」という人生を送れているということが素晴らしいと思いました。
- 他で観ることの出来なかった作品でしたので、この機会に観ることが出来て良かったです。170分もの作品を楽しく、時にほろり、時に考えさせられながら、楽しむことが出来ました。
- 今の日本の教育問題と重なる部分があり、考えさせられる。でも、インド映画らしく楽しく笑いながら見させてくれるのがいい。
- 楽しい映画、よかったねえー。
- コミックで、シリアスで、すごく若々しいエネルギーある映画ですばらしかった。

「良かった」10枚 (37.0%)

- インド映画らしい「キソーテンガイ」の物語で面白かった。このように長い上映だと眠くなるが全くパツチリであった。◎スーパーインポーズが見つらいのが残念であった。
- 楽しい映画でよかったです。
- 昨年、近くで上映の機会があったが見られなかったので楽しみにしていました。少し時間が長いですが、良い映画と思います。
- 何も考えずに楽しい映画であった。純粹にわらえた。

無印 1枚 (3.7%)

- 字幕が白かったので読めずに残念でした。

横浜市内の映画館の数や状況に対してどのように感じていますか？

- 小さな映画館が少ない。昔の名画座とか、単館系
- もっとミニシアターが出来るとよい。大型の映画館ばかりでは不満だ。
- 色々な映画を観たいので。
- 市内にも沢山のシネコンが出来てとても便利になった。高齢者なので1,000円でOKなので月に2回以上利用している。ららぽーと横浜(鴨居)では会員になると6本見れば1本が無料になる。最近見た映画で素晴らしいのは「永遠の0」であった。戦争中「軍国少年」であった私にはあと1年で軍隊に入る予定であったので感無量であった。

横浜キネマ倶楽部に対して

- やはり、映画はスクリーンで見たいものです。ハリウッド映画や、大型シネコンではあまりやってくれない映画をお願いします。
- お振込でチケットを予約させて頂くことが出来、有難かったです。ありがとうございました。
- 今後とも多方面(広くの意味)の映画を期待しています。

・・・アンケートご協力ありがとうございます・・・

[[横浜キネマ倶楽部のページ]]

「大佛次郎と映画」

運営委員 安田雅之

昨年は大佛次郎没後40年で、今年は鞍馬天狗誕生90年にあたるそうです。そんなこともあってこのところ、大佛次郎講演会(講師は川本三郎氏)を聞きに行ったり大佛次郎記念館に出かけたりしました。大佛次郎といっても若い人には馴染みのない作家でしょうし、没後40年ということで世間的に大きく取り上げられた事もなかったと思います。私自身少し前まで「おさらぎ」だったか「おさなぎ」だったかよく分からなくなっていたし、それこそ若いころは仏教関係者の「だいぶつじろう」と平気で思っていたものでした。

そんな大佛さんですが世間一般にはやはり鞍馬天狗の作者として語られることが多いと思います。しかし調べてみると実に多様な面を持った奥深い人だと分かります。生まれた横浜を愛し描く一方、移り住んだ鎌倉の文化、自然を愛し、日本におけるナショナルトラスト運動の先駆者として活躍もしています。また無類の猫好きで常時10匹以上の野良猫を飼っていたそうです(家の中でずらっと横一列に並んで食事をしている猫の写真を見たことのある方もいるのでは)。作家としても鞍馬天狗のような作品の他、ライフワークとなった「天皇の世紀」な

どの歴史記述、随筆、ノンフィクションと実に幅広く活躍しています。また同時代を描いた小説も多く、そのいくつかは映画化されており、小津安二郎監督の「宗像姉妹」や大庭秀雄監督の「帰郷」などがあります。帰郷については川本三郎氏が絶賛していたのでぜひ見てみたいとDVDを探したのですが、結局リメイクされた西河克己監督作品のものしか見つかりませんでした。西河作品は主演が吉永小百合の日活作品で、正直今の目で見ると少々古めかしい演出という印象をぬぐいきれないのですが、吉永小百合以下、母親役の高峰秀子、父親役の森雅之いずれも迫真の演技には間違いなく、当時を知る方々には懐かしさとともに興味深く思い起こされるものではないでしょうか。大庭監督作品はまた随分違ったものなのでしょうが、こうした古い日本映画の魅力はぜひとも後々に伝えていきたいものだと思います。

鞍馬天狗の映画はご存じのようにシリーズ化され、横浜が舞台のものも含め多くの作品が作られています。ただ鞍馬天狗にしても、先の帰郷などの作品にしても今ではなかなか見る機会もなくなっています。もしご興味をもたれる方がいらっしゃれば是非上映のご要望をあげていただければと思います。

のは19団体でした。

参加人数は48名となりました。横浜キネマ倶楽部からは、4名の運営委員が参加しました。

13時30分に事務局長の山本均さんが開会の宣言をし、総会が始まりました。

司会は、運営委員の桑田葉子さんが務め、以下の議案について、討議が行われました。(議案)

I 情勢

1. 2013年の日本映画興行界
2. 2013年の日本映画界
3. 2013年の外国映画
4. 安倍政権がめざす「戦争ができる国」づくり

II 2013年の活動結果

1. 全国映連の取り組み
2. 加盟組織の動向

「2014年度

第49回 全国映連総会に参加して」

運営委員 岡田明紀

去る2014年4月12日(土)に開催された第49回全国映連総会に参加して来ました。

「全国映連」とは、正式名称を「映画鑑賞団体全国連絡会議」といい、映画を愛好し、日本映画がすぐれた文化・芸術として発展していくことをねがって活動する映画鑑賞団体の全国連絡組織です。年に1度、加盟する上映活動団体が集まり総会を開催しています。

総会の開催場所は、岩波ホールがある岩波ビル9階の岩波シネマサロンでした。

総会には、全国で映画の上映活動をしている団体(北海道から九州まで)が参加します。

加盟団体は34団体あり、今回の総会に参加した

[[横浜キネマ倶楽部のページ]]

Ⅲ 2014年の取り組み

1. 映画鑑賞運動の課題
2. 全国映連活動計画
3. 組織拡大と活動の活発化

討議の中で特に話題になったのは、去年も挙がっていた「デジタル化の対応」についてです。

デジタル化への対応は各団体によって異なりますが、どこの団体も主体的に動くことが難しい状況のようです。

映画館を借りている団体、市民ホールなどで上映をしている団体など、大きな流れとしてはDCPによるデジタル上映に移行しているようです。

「35ミリ映写機がいつまで置いてもらえるのか」(函館映画鑑賞協会)

「フィルム上映では作品選定の幅が狭まっている」(神戸映画サークル)

などの意見がありました。

横浜キネマ倶楽部では、幸いデジタル上映をする際は、プロジェクターをレンタルすることができ、プロジェクターの操作も運営委員がおこなえるため、デジタル化の対応について他の団体ほどの切迫した状況に置かれていません。

逆に35ミリのフィルムで上映をする際は、35ミリの映写機をレンタルし、映写技師に依頼して上映操作をおこなっているため、デジタル上映よりも手間と費用が掛かっている状況です。

もう一つ話題になったのは「各団体の会員数」についてです。

各団体とも会員数が長期的に減少し、増えているところはわずかに限られていました。

会員の高齢化が顕著になる中、それぞれの加盟組織が、次なるステップに向けて暗中模索した年と位置付けられます。

横浜キネマ倶楽部では、2011年より会員制を導入しました。2010年以前は、各上映会の来場者数によって収益が左右する上映形式でした。それでは、上映活動が安定しないと考え、会員制に踏み切りました。

しかしながら、現時点での会員数では、まだ上映会の費用を全てカバーするだけの会員を獲得できていません。

依然として、会員以外の来場者による収益を期待する上映形式になっています。

(この会報を読んでいる方で、横浜キネマ倶楽部の上映活動に賛同して頂ける方がおりましたら、

当会場のロビーで入会手続をしております。是非、入会をご検討して頂けると幸いです。)

会議は討議の後、17時00分に総会は閉会しました。

総会の閉会后、全国映連賞贈呈式と受賞パーティーが開かれました。

この賞は、加盟団体の投票によって選出された賞です。

今年を受賞作品および受賞者は以下のとおりです。

作品賞 『そして父になる』(日本映画)

『きつと、うまくいく』(外国映画)

監督賞 高畑勲、石井裕也

男優賞 水谷豊、リリー・フランキー

女優賞 真木よう子、田中裕子

特別賞 男鹿和男、三上智恵

受賞パーティーに出席された方は、高畑勲監督、リリー・フランキーさん、田中裕子さん、三上智恵監督でした。

その他の受賞者は、仕事の都合で本人が参加できなかったため、代理の方が受賞されていました。

全国の上映会関係者の方と意見交換ができて有意義な時間を過ごすことができました。



高畑勲さんと

[[横浜キネマ倶楽部のページ]]

「横浜キネマ倶楽部 第4回総会報告」

運営委員 岡田明紀

2014年5月10日(土)、横浜キネマ倶楽部 第4回総会を桜木町市民活動支援センターセミナールーム1で開催しました。

出席した正会員は15名(うち運営委員12名)、委任状19通、5月10日時点の正会員数43名で過半数を満たしており、総会が成立していることを確認しました。

午後2時に司会者が開会宣言を行い、総会が開始されました。

会長の挨拶があり、出席者が自己紹介をおこなった後に議事に入りました。

2014年度の議事は、[活動報告] [決算報告] [活動方針案] [予算案] [役員案] となります。

【活動報告】

横浜キネマ倶楽部は、“会員を中心とした映画、芸術・文化に関する研究及び情報の発信”を掲げて活動をおこなっています。

具体的な活動として主に(上映会)と(映画館づくり)を中心としております。

(上映会)は、2013年度で4回の通常上映会と1回の特別上映会を開催しました。第31回の『かぞくのくに』ではゲストのヤン・ヨンヒ監督の講演が好評を博して、278名の来場者がありました。2013年11月に開催した特別上映会では横聴協との共催による聴覚障害者向け字幕付き上映会を行い、331名と2013年度で最大の来場者を記録することができました。一方、第33回の『よみがえりのレシピ』と第34回の『きっと、うまくいく』の来場者は共に110名前後と振るいませんでした。

上映作品により来場者のばらつきがありました。(映画館づくり)の方は、映画館づくりに向けての具体的な活動はおこなえず、ミニシアターを訪問して情報収集をする訪問活動も定期的におこなえませんでした。それに代わる訪問企画としてマスコミ用の試写会場として使われている『人形町三日月座』を訪問しました。

【決算報告】

第31回と特別上映会の収益は、黒字となりましたが、その他の上映会(第32回、第33回、第34回)では、赤字となり、年間で10万円の赤字という結果になりました。

正会員を増やすことで、安定した予算を組む事がで



きますが、現状の正会員数では、1年間の上映資金をカバーするに至っておらず、依然として、一般来場者数によって収益が左右されている現状を早く脱却するためにも正会員の勧誘を強化していく必要があります。

【活動方針案】

例年通り、4回の通常上映会と1回の特別上映会に加えて、2014年度は、会員の交流の場をもっと増やしてはどうかという意見がありました。

現在は、上映会でのロビー交流会でしか会員の交流の場がないので、もっと交流の場を増やしていく方針を考えております。

「毎回上映会に来ている人にチラシを郵送する必要はないのでは」という意見もあり、もっと細やかな対応をすれば無駄な出費を削減できるという意見がありました。

特別上映会は、料金を999円にした方が会場が安く借りられるので、予算削減につながるという意見もありました。

このような意見を2014年度の活動方針案として検討して行き、より良い活動を実現して行く予定でいます。

(訂正箇所の報告)

会員に配布した2014年度 議案書[活動方針案]の一部を以下のように修正します。

□上映会

(原案)チケットぴあによるチケットの販売を開始
(修正)チケットぴあ等によるチケット販売の強化

【役員案】

最後に役員提案では、新たに会員の1名(尺英也さん)が運営委員に名乗りを上げてくれました。

また、今回の総会をもって運営委員1名(八幡温子さん)が退任することになりました。

それぞれ承認され、運営委員の人数は、2013年と同様に15名となりました。塚田さんが監査に、伊藤とよみさんが運営委員にとの案もでしたが、今回は見送られました。新しいメンバーを迎えてより良い活動をおこなって横浜キネマ倶楽部を盛り上げていきます。

運営委員:宇野直子/金子美佐緒/塩田初美
/鈴木啓真/尺 英也/塚田 豊
/服部太加志/村上克也/安田雅之
/山下武信

監査:伊藤とよみ/増田恵子

それぞれの議案は活発に討議され承認されました。

来年、2015年の5月で横浜キネマ倶楽部は10年を迎えます。

メモリアルイヤーに向けて、このメンバーで1年間頑張りますので、会員の方、常連の来場者の方、今回初めて来場された方、皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

【2014年度 運営委員体制】

会長:伊藤幹郎

副会長:石井洋一

事務局長:岡田明紀

<<< 前売り券購入方法についてのお知らせ >>>

【ゆうちょ振込による前売り購入】

各上映会3日前まで、ゆうちょ口座にて前売りを受付いたします。
前売り料金(1,000円)を以下の口座へご入金ください。
チケットは、当日受付にてお渡しいたします。

ゆうちょ銀行総合口座 記号 10200 番号 22932931
加入者名:ヨコハマキネマクラブ

【プレイガイドによる前売り購入】

前売り券取り扱い所:「有隣堂本店」(伊勢佐木町) TEL045-261-1231
「高橋書店」(元町) TEL045-664-7371
「シネマ・ジャック&ベティ」(黄金町) TEL045-243-9800

【チケットぴあでの前売り購入】

新たな前売り購入方法として「チケットぴあ」での購入が加わりました。
コードはホームページ等でお知らせします。

次回上映会のお知らせ

日時:2014年8月30日(土)

①11:00 ②14:00

入場料: 会員無料/賛助会員 800円
前売り一律 1,000円
当日一律 1,300円
障害者 1,000円 介護者1名無料

会場:横浜市西公会堂

(横浜駅下車徒歩10分、相鉄線平沼橋駅下車徒歩8分)



東風配給

「ペコロスの母に会いに行く」

2013年/113分/日本/原作:岡野雄一/監督:森崎 東
出演:岩松 了、赤木春恵、原田喜和子、加瀬亮、竹中直人

あの「ペコロスに母に会いに行く」が、ついに映画化!

原作は、長崎在住の漫画家・岡野雄一のエッセイ漫画「ペコロスの母に会いに行く」。
深刻な社会問題として語られがちな介護や認知症。でも、主人公のゆういちはいこう言います。
“ボケるとも、悪か事ばかりじゃなかかもしれん”。

そんな自身の体験をもとに描かれた認知症の母との何気ない日常が、多くの共感と感動を呼び、現在16万部を超えるベストセラーに。

そして、ここにまったく新しい介護喜劇映画が誕生しました!

監督は『喜劇・女は度胸』『男はつらいよ フーテンの寅』など卓絶した人情喜劇で映画ファンを唸らせてきた森崎東。『ニワトリはハダシだ』以来、実に9年ぶりの最新作に益々盛んな映画への情熱をぶつけます。ときに

ペーソスを湛えながら、ユーモアたっぷりに主人公ゆういちを演じるのは岩松了。もうひとりの主人公みつえ役に赤木春恵。89歳にして映画初主演となる本作で実母の介護経験を活かした迫真の演技を披露。若き日のみつえに原田貴和子、夫のさとるに森崎監督の薫陶を受けた加瀬亮。さらに、原田知世、竹中直人、宇崎竜童、温水洋一など豪華キャストが集結!!

森崎東監督の復活作に集まったのは、俳優たちだけではなくありません。撮影監督に森崎作品『生きているうちが花なのよ死んだらそれまで覚宣言』でカメラマンとしてデビューし、アカデミー賞(R)外国語映画賞を受賞した『おくりびと』の浜田毅。音楽プロデューサーに『千と千尋の神隠し』の大川正義と日本映画界を代表する実力派スタッフが集まりました。そして、作品に感動したという歌手の一青窈が主題歌『霞道(かすみじ)』を書き下ろしました。

[事務局より]

《東北に映画を届けよう!募金のお願い》

東日本地震の被災者、とりわけ子どもたちに、移動上映会で映画を届けるための募金をお願いしています。ロビーにカンパ箱を設けましたので、ご協力お願いいたします。皆様からお預かりしたカンパは、コミュニティシネマセンターを通じて、被災地の事務局に届けられます。(2013年度募金総額は18,032円でした。ありがとうございます。)

<2014年度 新会員&更新受付中!>

- ◆入会金500円(更新時不要)、年会費3,000円(一括払い、会期は2015年3月まで)
- ◆上映会(4回)を無料で観ることができます。
- ◆総会(年度初め)における議決権があります。
- ◆特別上映会を500円で観ることができます。

<賛助会員も募集しています!>

- ◆入会金不要、年会費1,000円(一括払い)
- ◆年度内の上映会を各800円で観ることができます。
- ◆総会の議決権はありませんが、ご出席いただけます。



横浜キネマ倶楽部会報

発行:横浜キネマ倶楽部

〒231-0012 横浜市中区相生町1の15
第2東商ビル4階-C 労働市民法律事務所 気付
TEL:080-8118-8502
Eメール:yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp
HPアドレス:http://ykc.jimdo.com